

日本酒カクテル



「私に理解できないお酒を作った」。老舗の清酒メーカー社長の依頼に、女子大生らが斬新なアイデアで応じた日本酒カクテルが完成した。ショッキングピンクと黒のど派手な瓶を開けると、バラの香りがあふれる。その名も「にゅーはーふ」。コンビニなどの店頭に並び始めている。

「にゅーはーふ」

小悪魔風味



バラの香りの日本酒カクテル「にゅーはーふ」を開発した大学生ら＝神戸市西区の県立大

派手なデザイン・バラの香り

開発したのは、1550年創業の小西酒造（伊丹市）と神戸親和女子大、県立大の学生たち。「若い世代の日本酒離れを食い止めたい」と考えた15代目の小西新太郎社長（60）が2年前、両大学に依頼した。どれくらい日本酒が敬遠されているのか把握しようと、学生たちが神戸親和女子大で2010年12月に調査を実施。118人のうち66人（56%）が「日本酒を飲んだことがない」、30人（26%）が「あまり飲まない」と回答した。

「若い女の子はかわいいもの、小悪魔風のものが好き」と神戸親和女子大4年の佐々木菜緒さん（21）はデザインを説明する。ラッパ飲みしやすいよ

「それで、若い女性の「感覚」に訴えて商品を買ってもらおう」「エモーショナルマーケティング」と呼ばれる手法を採用。どんなお酒がほしいかインタビューを重

「若い女の子はかわいいもの、小悪魔風のものが好き」と神戸親和女子大4年の佐々木菜緒さん（21）はデザインを説明する。ラッパ飲みしやすいよ

老舗、女子大生らと開発

「細身にした瓶については、一気の場合者同士、自宅で集まって飲む『宅飲み』は学生の定番だから、グラスを汚さず、回し飲みしながら飲める酒がほしい」という声も多かった。

「白雪」で知られる小西酒造は、大手清酒メーカーとして初めて地ビール製造に参入するなど「革新」を続けてきた。にゅーはーふを見た小西社長は「味もラベルも名前も、驚きの連続。こんなので売れるのか」と絶句したが、「新しい切り口が、新しい伝統を作る」と商品化を決断。2月に東京で開かれた商談会には学生も出張してPR。パイヤーの手応えは上々という。1本290円。

（日比野登子）